シリーズ　―召命―

どうして神父さまに!!

大塚乾隆　神父

今回は京都教区司祭大塚乾隆神父にお話を伺いました。

（2009年6月～2010年6月に、掲載したシリーズの続編です）

○は編集子　●は大塚神父

○　カトリックとの出会いをお聞かせください。

●　幼児洗礼でカトリックの幼稚園にも通ったので、小さい時から教会とは関りがありました。

○　子どものころのお話を聞かせてください。

●　かなり小さく生まれましたが、子どもの頃から今に至るまで、大きな病気にかかることもなく元気に過ごせています。色々な意味で「元気な」子どもだったと、皆さんがおっしゃっています。

○　神父様になろうと思われたお話を聞かせてください。

●　一番のきっかけは、二十五年前に河原町教会で行われた叙階式に参列した時のことで、神学生として慕っていた「お兄さん」の叙階式を見て「かっこいい」と思ったことです。子どもがある職業（野球選手とかお医者さんとか…）に憧れるのと同じように、小さい頃の私にとっては、ミサを捧げる司祭の姿がかっこよかったのです。

○　神学生になられてからのお話を聞かせてください。

●　「人を通して働かれる神の働きを大切にした」と言えばかっこよいですが、基本的に「はい」と返事することを学びました。消極的な「はい」もありましたが、ペンキ塗り・障子はり・庭仕事から始まって色々なことを学びました。今も色々なことを楽しみながら続けています。

　六年間の神学院での生活は、特に同級生や仲間たちに助けられました。また教区内外の小教区では、信徒の皆様の優しさと祈りに支えられました。

○　司祭になってからどうでしたか。

●　ミサ・病者訪問・講座を大事にしているうちに時間があっという間に経ちました。予期せぬことも多かったですが、それでも寝込むことなく日々を過ごせたのは、神様が「働きなさい」とおっしゃっているのでしょう。ブロック内での奉仕に際しても、皆様の支えと協力があってのことだと思っています。

○　司祭叙階されて何年ですか。

●　一年と数か月が経ちました。

○　司祭になられてから、楽しかったことや喜びをお聞かせください。

●　毎日楽しく過ごしています。ミサを捧げられるのが何よりの喜びであり、病者訪問でもこちらが励まされ、力づけられています。イエス様のことやミサについて、幅広い年齢層の方々と学びながら、皆さんがどんどん興味を持っていかれるのも嬉しいです。

○　今のお気持ちをお聞かせください。

●　神学生の時に、「共に笑い、共に泣き、共に喜び、共に悲しみ、共に歩み、共に祈る司祭」になりたいと書いていたのを思い出しました。このような司祭になれるよう、信徒の皆様と共にいる司祭であるよう、これからもお祈りください。

ユスト高山右近列福式
司式　アンジェロ　アマート枢機卿
2017年2月7日大阪城ホール